

平成25年度秋田県総合防災訓練が

にかほ市を会場に行われました。

～災害発生から3日目までを想定した総合訓練～

8月30日、象潟元町地域を主会場に秋田県総合防災訓練が実施されました。

これは秋田県沖を震源とする大地震が発生し、高さ10mを超える大津波が発生したという想定で行われ、この訓練には宮城県松島町(写真⑫)や茨城県大洗町(写真⑪)をはじめとする県内外からの観覧者が訪れ、参加者らは有事さながらの緊張感で訓練に臨み、災害への備えや対応方法について確認を行いました。

◆地震発生初日

【9時10分】▼公会堂には多くの避難者が集まり、池田医院の看護師が、ケガ人を救護した。▼上空や、地上では被害状況の把握と避難誘導を実施。(写真①)

【9時15分】▼象潟小学校では津波から逃れるために体育館屋上へ避難。地域住民も屋上を目指した。

【9時25分】▼象潟小学校屋上に取り残された孤立避難者を陸上自衛隊のヘリコプ

【10時10分】▼津波で流されたがれきが道路に堆積し、救助作業の妨げとなっている。▼にかほ市建設業協会は、市との災害協定に基づき道路のがれきの啓開を開始。また、路上に残っていた車の処理は、日本自動車連盟JAFが行った。

【10時20分】▼にかほ市は、各応援隊の受け入れを実施。消防・警察・陸自・海保等の各機関は、津波により浸水した地区の救助・捜索活動を開始した。(写真⑦)

▼また、市で設置した救護所には多数の傷病者が搬送され、各地から集結したDMA Tおよび日赤秋田支部が救護活動を実施した。(写真⑥)

▼秋田県は、災害拠点病院である由利組合総合病院の機能が喪失したため、海自補給艦「ましゅう」に洋上救護所を設置し、各地の災害現場および海上から「ましゅう」に傷病者を次々と搬送した。▼にかほ市も救護所に搬送された傷病者や、津波で1階が浸水した金病院の患者を自衛隊車両で臨時ヘリポートへ搬送後「ましゅう」にヘリ搬送した。また、比較的被害の少なかった内陸病院へ自衛隊車両、救急車により陸

ターが救助した。

【9時30分】▼JR列車が象潟駅構内で緊急停車し、乗客を電車から降ろし象潟公民館方向へ避難誘導した。

▼羽後交通、象潟合同タクシー、富士タクシーら公共交通機関も乗客を降ろし象潟公民館方向へ避難誘導を行った。

◆地震発生から2日目

【9時40分】▼津波により被災した建物から出火しているのを消防団員が発見し、周囲の住民に呼びかけ、バケツリレーにより初期消火を行った。(写真②)

【9時45分】▼住宅密集地で火災が発生。延焼拡大する恐れがあるため、消防団が出動し、防煙線を張り一斉放水、延焼防止にあたった。

【9時50分】▼津波の浸水により工場棟で火災が発生。浸水後の工場を確認しに来た警備員が火災を発見、通報し、現場周辺の立ち入り制限等を行った。▼また、

路搬送した。▼一方、津波により浸水した地区での救助捜索現場では、ドラム缶等が散乱し、救助捜索隊の二次災害の危険があるため、にかほ市は危険物安全協会に回収および市指定の箇所への集積を指示した。

◆地震発生から3日目

【11時00分】▼地震と津波により甚大な被害を受けてライフラインの復旧を開始、電気・ガス・水道・電話の復旧には、県外からの応援隊も到着し本格的な復旧を行った。

【11時10分】▼災害協定事業所や全国から寄せられた支援物資が大量に到着。届けられた支援物資を象潟中学校生徒が学校へ運搬を行った。▼ヤマト運輸は、集積所の象潟中学校から各避難所へ物資運搬を行った。

【11時15分】▼発見された多数の遺体を遺体安置所に搬送。遺体安置所では、検視・検案・身元確認を実施した。(写真⑨)

【11時20分】▼市の災害対策本部には、次々と寄せられる情報に混乱を極めている。▼多数の遺体が収容されており市は、県の災害医療対

津波により危険物を積載したタンクローリーが延焼中の工場棟付近に流されてきており、タンクから危険物が漏れい。その漏れいした危険物に引火し爆発、延焼拡大する恐れがあるため、にかほ市消防本部と消防団は、秋田県広域消防相互応援協定に基づき、県内陸部の消防本部から応援出動した消防隊と共に、延焼中の工場棟を包囲、放水および延焼阻止を行った。(写真③、④)

【9時55分】▼一時避難所で津波被害を逃れた住民が、指定避難所に移動を開始。▼自力歩行不可能な被災者をリヤカーや車イスで搬送。デイサービスわかばの入所者は、職員および自主防災組織の協力で車で避難した。

【10時00分】▼炎上した漂流物が河川上流部に流され、火の粉が林床に飛び火し林野火災が発生。住宅地への延焼の恐れがあるため、防災ヘリによる消火を行った。(写真⑤)

策本部に遺体の検案を要請した。

【11時25分】▼上下水道が被災し、避難所のトイレは使用不能のため、簡易トイレを作った。また、給水車による給水活動を行った。(写真⑩)

【11時30分】▼避難所を開設した市災害対策本部は、市民への広報活動を開始した。

【11時30分】▼避難者の多様な要求に応えるため、日赤秋田県支部をはじめとする各種団体の協力のもと様々な活動を行った。

【11時40分】▼電話が繋がらないため、安否確認を求めている市民が避難所へ殺到。NTT東日本を始めとした通信事業者は災害時特設公衆電話の設置やポータブル衛星車などを投入して安否確認の要望に対応した。

【11時45分】▼社会福祉協議会のボランティアコーディネーターが全国から駆けつけたボランティアの受け付けを行い、受け付けを済ませたボランティアはそれぞれの配置場所へ活動を開始した。

【11時50分】▼避難所では、自衛隊・日赤奉仕団・女性消防団の炊き出しが行われた。(写真⑧)

